

平成24年度笠間市行政評価外部評価委員会 会議録

1. 日 時 平成24年8月7日(火)
2. 場 所 笠間市役所本所3階 全員協議会室
3. 出席者 委 員 井上 操
岡野 博之
赤津 長弘
中澤 まさ
横須賀 徹
所管課 小坂市民生活部長(市民活動課)内桶課長, 岡野課長補佐, 磯部主査
事務局 深澤市長公室長, (行政経営課)野口課長, 高松主査, 鈴木係長, 石塚主事
4. 傍聴者 1名
5. ヒアリング事務事業 防犯施設整備事業
6. ヒアリング内容

【事業説明】 市民活動課

【質疑議論】

○委員

それでは防犯施設整備事業について、ご意見ご質問があればお願いします。

○委員

この事業は今後も続けていく必要があるかと思います。ただ、区長の取り組みの姿勢、区の財政状況によって、ばらつきが出てきているのではないかと思います。そこで、事前に質問しました通学路の防犯灯の設置状況ですが、現在70%ということで3割は未整備ということですね。これは是非優先的にやるべきだろうと思います。一般的なところは多少削っても1年、2年待っていただいて、通学路だけは早目につけた方がいいと思います。

○市民活動課

はい。通学路につきましては、学校の方と平成21年度と一緒に歩き、教育委員会からの要望が出されたのが157件ありました。県道及び国道がありますので75件を市が対応すべきものということで、そのうち実施が3年間で53件ということです。そういう意味で70%と挙げましたが、先ほどいったように集落内での進捗、幹線道路の進捗を含め

ると通学路全体で90%以上は超えているのではないかと思います。要望に対しての70%ということで、今回書かせていただいたのですが、通学路をどこまで見るかということもありますので、集落と幹線道路ということであれば、ほぼ9割以上の整備率になっているのではないかと思います。

○委員

区の管理も含めると90%は整備されているというこの理解でいいのですか。

○市民活動課

小中学校の通学路の関係でいいますと、100メートル単位で防犯灯がきちんと付いているかということで考えれば90%以上は行っていると思います。

○委員

防犯カメラだけど、現実には有効性というのはどうなのでしょう。

○市民活動課

駅前での犯罪防止ということで、実際に土浦、取手などの犯罪もあったので、先んじてということですが、実は自転車の盗難が友部駅、特に南口が自転車の盗難が多いということでございます。

今回、駅前の駐輪場の見える位置に付けておまして、事件などもあり警察との協議の中で、防犯カメラでの捜査ということで1件行っております。

防犯カメラを付けたというだけでも、犯罪抑止には効果があると思っておりますので、今後警察との協議を踏まえながら、運用していきたいと思っております。

○委員

資料には稲田駅、宍戸駅と書いてあるが、ここには事業者であるJRとして、きちんと防犯カメラは付いているのですか。

○市民活動課

駅の中には、防犯カメラは付いていないと思います。友部駅と、岩間駅は付いていますが、稲田駅と宍戸駅は付いていない状態だと思います。

○委員

まずは、事業者がきちんと対応するというのが最優先。事業者にもきちんと付けさせるというのが最初だね。

それ以外のところで、どう対応するのかという話だけど、カメラはいろいろな問題があ

る。単に付けばいいという問題ではない。ただ、それによって効果がでなければ、費用の無駄遣いになる。警察のために付けているわけではない。

効果を出すために、防犯カメラを設置しているときちゃんと表示していますか。

○市民活動課

防犯カメラが付いているということは、防犯カメラの支柱に表示をしております。ただどこまで表示するかということになると、まだ不十分なところもあると思いますので、防犯カメラを設置しているという表示をすることで、抑止効果があるということでありますので、もう一度点検し設置していきたいと思っております。

○委員

抑止力だというのなら、抑止できるだけのエリアにちゃんと表示しないと意味がないと思う。

防犯灯は、説明で聞いたコンパクト型というのは、中途半端なような気がするのですが、思い切って、LEDに絞り込んでしまった方が、先々のことを考えるといいような気がする。LEDに絞り込んで何をするのかというと90%に達しているのだから、残りの場所は当然新設があるのしょうから、そこはLEDで対応する。町内会から要望を上げてもらうというのは、逆の意味で切り替えも上げてもらって、早くどこまで切り替えられるかの方が、全体としては効果があるような気がする。

要するに、旧来型を如何に早く無くすか。ということで対応した方が、街中全部明るくする必要はないと思うので、必要な戸数がある程度あれば、あとは、できるだけメンテナンスを減らすために、長期的に使えるものに切り替えていく。やはり1番新しいものに切り替えていかないと。

自分のうちのものは、とりあえず、切り替えられるところから切り替えていると思う。蛍光灯は切り替えづらいとかありますが。だけど、割と一般家庭での切り替えが始まっているという状況の中では、防犯灯も切り替える時期に来ているのではないかと思うのですがその点はどうですか。

○市民活動課

LEDにいつ頃から切り替えるかということで検討をしています。

事前質問で、地区ごとの防犯灯の設置数を求められましたのでお答えしたのですが、全部で8,362基があります。そのうちコンパクト型が2,929基。3分の1は超えているのですが、まだまだというところがあります。

今回、コンパクト型からLEDが安くなってきてのことでしたので、少し暗いのですがコンパクト型と同じくらいの金額でLEDが付くということです。これらは地区の選択で、LEDにするところには3分の2の補助を行って、コンパクト型については半額の補助を

する等、2種類の補助等を考えてLEDを推進したいと思っています。ただ問題がありましてLEDの防犯灯は電球のみの取り替えができない。つまり全部取り替えなければならないと。10何年後にどうなっているか分からないですから、全体を取り変えなければならないというところが迷いのところです。

コンパクト型だと電球だけを交換する。今は1万時間が2万時間に上がっているのも、そこが難しいところです。

LEDにはしていくつもりで補助体系を検討していきたいと思っておりますが、耐用年数は長いのですが、全部取り替える必要があるというのがネックになってきているので、地区の負担だけでやるのか、行政で負担するのかというところを検討して行かなければならないと考えております。

○委員

2種類とか3種類とか、コンパクトもやる。LEDもやる。普通の蛍光灯の取り替えもやる。選択肢としては最悪だと思う。

蛍光灯の取り替えもしなくてはならないと思うけど、基本的には、機材そのものを取り替えるという前提で進まない、全体のメンテナンスはぜんぜん落ちていかないわけだから、全体のメンテナンスを落とす。維持管理費を落とすことを前提で取り組んだ方が、私は正しいように思うのですがどうでしょう。

○市民活動課

電気代からいえば、新しい形で明るさはないのですが、今よりも落ちるといってもありますので、そちらを中心に切り替えていくということで考えております。

ただ行政区での考え方もあるので、ご説明して理解を得ながら推進することも大事ということで、そこに迷いがあるというところでございます。

○委員

市の方では、できるだけ区で管理してくださいといわれてますよね。区の管理にしたものは防犯灯ですか。

○市民活動課

防犯灯しかないと思います。

○委員

先ほどの話の中で、LEDがコンパクト形と値段がそうは変わらないので、付けられるかも。だけど暗い。暗かったら防犯灯の役目にならないですよ。

明るくて、年数がもって、それで電気料も安くなるということでしたらいいのですが、

暗いものを市が推奨するという事だったら変かなと思う。地域にできるだけ区で管理してくださいといわれていますが、区管理にすることによって、区の財政が電気料で大変です。

市が、どのように地域を明るくして、防犯に役立つのだというところが分かりにくいように思います。

○市民活動課

コンパクト型に切り替えたときには、同じ20ワットであれば、明るいものを選択した方がいだろうということで料金が同じで明るいものという選択がありました。

同じ明るさのものでは、若干LEDはまだ高いので、今回のものは1ランク下のLEDですが、今の蛍光灯型の20ワットと同じ明るさ以上は確保できます。

しかし、今のコンパクトに比べれば暗くなる。だけど電気料は、年間のコンパクト型につきましては2,700円から2,800円の間で料金がかかるのですが、このLEDの10ワット型にすると、1,400円ぐらいで済むので、地区の負担もそれだけ軽減できるということもあります。

地区の判断もあるので、市の方針としても、しっかり行政区以外の設置箇所もありますので、明確に市の方針として出さなくてはならないとこだと思っております。

○委員

明るい。暗い。どちらがいいかは一つの議論でしょうが、市民活動課で行っている事業は、防犯パトロール等いろいろなソフト事業との組み合わせの中の一つだと思います。

先ほど委員からのお話で通学路優先という話も出ましたが、どのような犯罪が、どの地区で、どのような環境の中で起こるといふ分析を踏まえて、ただ100メートルおきに明かりを付けるという単純な話ではないような気がします。

例えば、繁華街の裏通りはきちんと付けなくてはいけないとか、場合によっては明かりと防犯カメラは必ずセットでなど、市民活動課で行うのなら、人の暮らしと環境と合わせたような事業になるべきではないのかと思う。

自転車の盗難の話がありましたが、それ以上の犯罪が暗いところで行われていることもあるわけです。

市民活動課として行うならば、道路を明るくするとかのレベルだけではない施設整備事業があつてしかるべきではないかと思えます。

○市民活動課

今回の外部評価は防犯施設整備事業に限定されています。市民活動課では、他に住まいの防犯対策事業ということで一昨年、個人の家を狙われた空き巣が多かったということで、県内で初めて個人の防犯対策として、2重の鍵、センサーライト、防犯カメラを設置する

に当たって助成をしました。

啓発事業をしっかり行うことで意識を高めるのが1番大切ということで、20,000円が限度ですが、防犯の備えの部分に助成をしています。昨年120から130件の申請があり、そういうものもPRをしていきたいと思っています。

また夜に自転車や重機等が盗まれるということがありまして、昨年から夜8時から朝4時まで、安心安全パトロール事業というものを行っています。これも警察との情報交換の中で、何の犯罪が多いかということで重点的に行うこととしております。

これらを組み合わせた全体的な防犯の取組は委員長がいわれたとおりですので、防犯カメラ、防犯灯につきましても、今後方針を決めながら設置していくということになると思います。

○委員

当然にお金が掛かるということになると思うのですが、お金が掛かるということは、一気に全部整えることはできにくいと思います。そうすると資料に自警団の育成と普及と書いてありますが、笠間市では自警団というのがどのくらいの団体数があるのか。それと茨城県日立市では89団体と非常に多いのですが、今後はこれらを活用していかないとならないと思います。どのように育成と普及をしているかということをお聞きしたい。

○市民活動課

防犯の人的な取組としましては、2種類あります。笠間市では防犯連絡協議会、防犯連絡員という制度がありまして、地区に50世帯に1名ぐらい防犯連絡員を指定しています。

また、防犯連絡員個人の活動ではなかなか成果が上がらないということで、同じ地域、隣接地域を防犯連絡員が課題を意識しパトロールするということが大切だろうということで、2年前から防犯連絡員会議を開いてパトロール体制を月何回どのようにやるのかということをお聞きしながら行っています。

その他に防犯の自警団がボランティアでパトロールを行っており26団体あります。地域ごとにそれぞれで活動を行っていますが、大きな団体から小さな団体まであります。笠間市の中で、全部で1,600人ほどの登録がありパトロールを常時している状況でございます。

○委員

LEDの件ですが、先ほど説明があったように、コンパクト型とほぼ同じ金額ですよ。工事費込みで現在24,000円ですが、16,000円の補助が出るので、8,000円で地区としてはできる。業者を呼んで聞いたら、先ほど説明があった同じ説明をしていただいた。来年度の予算取りで10月に区長に連絡しますよね。その時までには、結論は出ないですか。市民活動課としてLEDに絞っていくのか。

暗いとしても、今の蛍光灯と同じぐらいの照度は保たれる。LEDもこれから改善されて、値段も安くなると思うけど、その辺の見込みを10月までにはできるのか。

○市民活動課

平成24年度の防犯灯助成についての希望調書ということで別添の資料でつけております。これは希望調書等で新設、交換が何基と要望をいただいているものでございます。コンパクト型が前提で要望を取っていますが、LEDとなれば、LEDの表示をして、どういうものだという説明をしないと要望にはならないので、来年切り替えていくなれば、方針を出してしっかりと区長に説明をしながら行わなければならないことになると思います。

行政区が笠間市には320あります。昨年は199の行政区から要望がありました。予算上1区当たり16万円以内と記載はしたのですが、実際には8万円ぐらいとなりました。半分しか認めないという予算の状況で、40区ぐらいがどうしても付けられないという状況にあります。

2年ほど前は、制限なしにいくらでも大丈夫という状況を作りました。そういう状況を取ってきたので、少し締めていこうというのが市の方針でございまして、付けないわけではないですが、予算の限度をもってやっていくと考えております。

○委員

それでは、時間が来ましたので、評価の方お願いいたします。

【評価】

○委員長

それでは、5人とも改善し、継続ということで方向性はできました。

意見としては、通学路における防犯灯の100%対応をお願いしたいと思います。